受付番号　第 *2022023* 号
承認日：2023 年 1 月 5 日

研究概要

1.　研究名称 または課題名テーマ等

大腿骨近位部骨折術後の高齢者におけるオトガイ下筋の量的及び質的変化：超音波画像による研究

2. 研究責任者(当院)

所属：　リハビリテーション室
氏名：清宮　悠人

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：国際医療福祉大学大学院言語聴覚分野教授
代表名：倉智　雅子

3. 分担研究者

所属：リハビリテーション室
氏名：田畑吾樹、川上里奈

4. 研究対象者

倫理審査承認後～2024 年 3 月 31 日の間に、聖隷佐倉市民病院において
〔大腿骨近位部骨折に対する手術〕を受けた方。

5. 研究の必要性

高齢者に多い骨脆弱性の骨折である大腿骨近位部骨折は、近年増加している。周術期には嚥下機能の低下と関連のある肺炎が合併症として多く、その対策の必要性が注目されてきている。

手術前には嚥下障害がなかった患者の内、12.3～34%に手術後に嚥下障害が発症したとの報告があり、サルコペニアや廃用性筋萎縮の影響が予測されている。2020 年に実施した研究では、実際に嚥下筋の 1 つであるオトガイ舌骨筋が手術後 2 週間で減少したことを確認したが、その要因は明らかにはできなかった。また、嚥下筋は複数あり、他の嚥下筋の変化は不明であった。

本研究では、大腿骨近位部骨折の手術を受けた患者に対し、侵襲の少ない超音波検査を用いた測定を使用し、複数の嚥下筋と骨格筋量を測定し、手術後の変化を観察する。また、嚥下筋が減少する要因を明らかにすることを考えており、周術期の嚥下障害の予防の一助となる研究として本研究は必要と考える。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は、超音波機器での評価にて嚥下筋を測定するため、他の嚥下機能検査（被爆を伴う嚥下造影検査）と比較して侵襲が低い方法を採用している。また、嚥下機能の確認には、少量の飲水から段階を踏んで確認するため、日常的な飲水よりも安全性が高まる方法を採用しているため、研究参加者への影響を最小限にするよう配慮している。

本研究の成果によって、大腿骨近位部骨折術後に問題となる嚥下障害につながる嚥下筋の変化について明らかにできれば、周術期の対策や、退院後の肺炎による再入院の予防などの助けとなると予想している。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151
担当者氏名：清宮　悠人
対 応 時 間：平日 8:30-17:00